

平成22年度 川上・川下ネットワーク構築事業
成果報告書

委託法人名 (代表者名)	株式会社ケイエスピー (大北 智良)	所在地	神奈川県川崎市高津区坂戸 3 - 2 - 1
契約名 (テーマ名)	BI 広域ネットワークを活かした川上・川下ネットワーク構築事業		

1. 委託業務の概要

(株)ケイエスピーが中心となり、提携ビジネスインキュベータ及び、産業クラスタープロジェクトが日常的に支援を行っている川上中小ベンチャー企業と、オープンイノベーションを志向する首都圏大企業(約500名)とのネットワークを活用し、川下大企業と川上中小・ベンチャー企業との事業提携のためにシンポジウム、ビジネスマッチング、支援者会議などを行い、戦略的な提携関係構築のサポートを行った。

中小企業の技術シーズに基づく提案型マッチングとして、中小・ベンチャー企業と大企業とのマッチングイベント「協創マッチングフォーラム」を2回開催した(10月、1月)。協創マッチングフォーラムでは、技術連携のためのファーストコンタクトの提供を目的として、より多くの川下企業に、より多くの川上企業の情報を提供するため、プレゼン時間5分、面談時間15分の限られた時間内でのビジネスマッチングを行った。

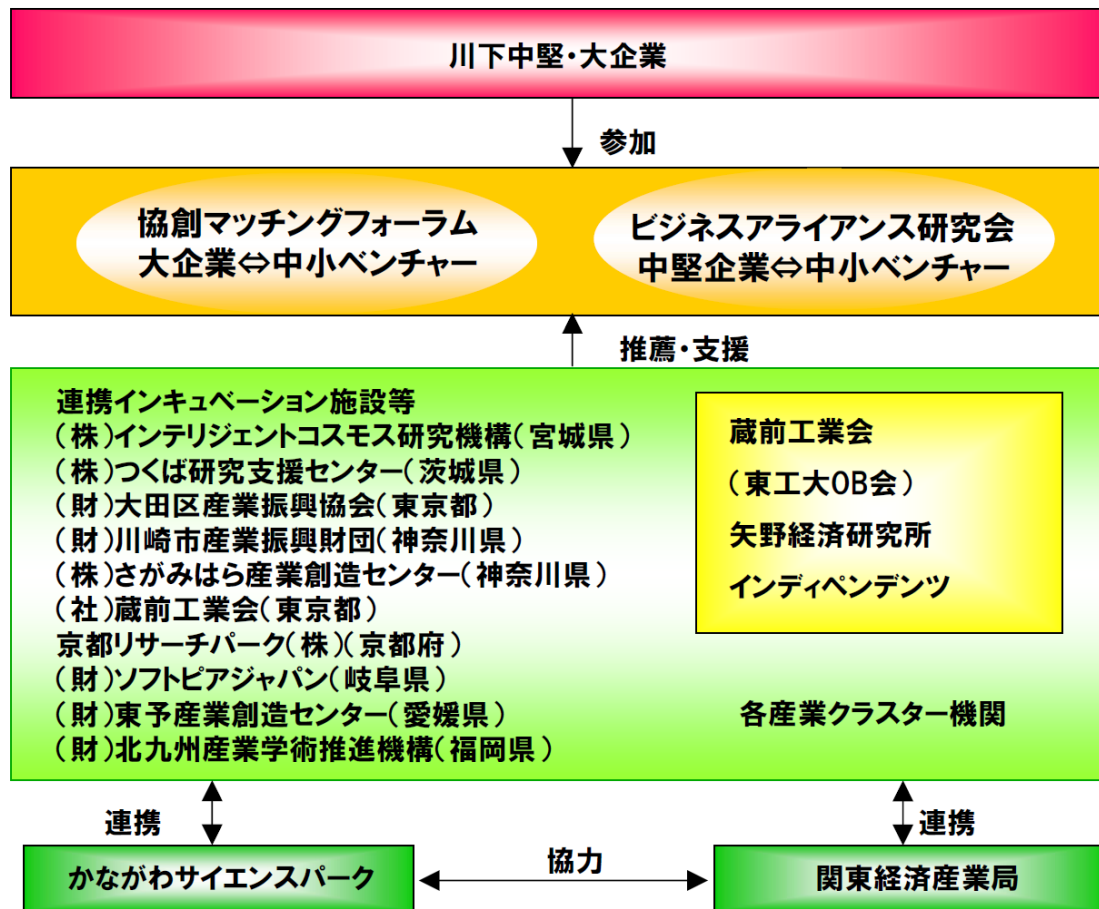
1月開催の協創マッチングフォーラムにおいては、「EV関連ビジネスを検証する」をテーマに、成長市場である電気自動車市場について、中小企業が主導する国内コンバージョンEVの状況、中国EV市場の最新情報をレポートするとともに、既にEV業界で先行している成長企業の戦略を取り上げ、新規参入を果たすために何をすべきかを討論するシンポジウムも開催した。

また、中堅企業と中小・ベンチャー企業の継続的なマッチングを目的として、「ビジネスアライアンス研究会」を開催し、中堅企業の具体的な事業テーマに関連する技術をもつ中小企業をKSP及び連携支援機関の推薦により集め、協業スキームを構築するため、下記の3つのテーマについて、交流会・研究会を開催した。

< ビジネスアライアンス研究会のテーマ >

- ・スマートグリッド
- ・センサネットワーク
- ・二次電池製造・検査技術

(概要図)



1 フォーラム構成企業者数及び企業者名(川上)

川上中小企業者数	川上中小企業者・団体名
65社	<p>第1回協創マッチングフォーラム(16社) ギガヘルツテクノロジー、ファルコンシステムコンサルティング、コンタクト、ボード・プランニング、エンベ、ビーム精工、アステラテック、フローテック・リサーチ、SIJテクノロジー、スギハラエンジニアリングズ、シリコンソーシウム、マイクロシグナル、遠藤工業、エムテック、キットヒット、日成工業、北斗製作所</p> <p>第2回協創マッチングフォーラム(26社) SCIVAX、テクノ・コア、トライテック、シリコンソーシウム、ジェム・デザイン・テクノロジーズ、アルファクス、リンクサーキット、ピューズ、エジソンパワー、ネクステッジテクノロジー、サイバー・ソリューションズ、ディブソル、Windy、フェノメナエンターテインメント、バージョン2、先端力学シミュレーション研究所、ピコサーム、フローテック・リサーチ、アドバンスト・ソフトマテリアルズ、アプライド・マイクロシステム、続木商事、山陽精工、森川製作所、ニューロング精密工業、メカトロジャパン、アフソル</p>

		<p>ビジネスアライアンス研究会（23社） アクアフェアリー、オーエスエスブロードネット、福島電機、シノザワ、釜谷サービス、ユビキタス・テクノロジーズ、カセダエンジニアリング、iSAFE、アイピースクエア、アプライド・ビジョン・システムズ、MQ、サクラテック、セキュア、セントラル技研工業、Bi2-Vision、ピノー、ワイケーシー、京浜理化工業、ネオテック、昭和精工、小松プレジジョン、コンタクト、サイエナジー</p>
--	--	---

2 フォーラム構成企業者数及び企業者名（川下）

川下 企業者数	川下企業者・団体名・有識者名
76社	<p>第1回協創マッチングフォーラム（24社） 本田技術研究所、スタンレー電気、三菱重工業、協同インターナショナル、積水化成品工業、キヤノンファインテック、NTTアドバンステクノロジー、シャープ、京三製作所、住友商事マシネックス、尾関、三菱ふそうトラック・バス、大日本スクリーン製造、荏原実業、大東タンクターミナル、山王、ハセテック、東レ、いすゞ中央研究所、ソニー、東芝コンシューマエレクトロニクス、東芝トランスポートエンジニアリング、三和ニードルベアリング、旭硝子</p> <p>第2回協創マッチングフォーラム（39社） アルプス電気、ソニー、村田製作所、東芝セミコンダクター社、シャープ、CSK、コニカミノルタビジネステクノロジーズ、カメイ、キヤノンファインテック、オリンパスビジネスクリエイツ、ハセテック、大日本印刷、ショウエイ、トーハン、東芝トランスポートエンジニアリング、大東タンクターミナル、三菱重工業、荏原実業、東芝テック、大日本スクリーン製造、エプソントヨコム、京三製作所、富士電機システムズ、住友重機械工業、日立製作所、いすゞ中央研究所、タキロン、パイオニア、鈴木金属工業、スタンレー電気、昭和飛行機工業、オートボックスセブン、本田技術研究所、フジクラ、村田機械、東京応化工業、住友商事、シマ商会、原田産業</p> <p>ビジネスアライアンス研究会（13社） ハセテック、ワイ・デー・ケー、東信電気、日東通信機、湘南技術センター、京三製作所、神栄テクノロジー、谷沢製作所、日本アレフ、セントラルエンジニアリング、オリンパスビジネスクリエイツ、日本電熱、信越富士通</p>

川下企業者

2. 事業実績

（1）フォーラム開催実績（内部検討委員会および外部イベント）

川下大企業及び川上中小企業のマッチングにおいては、面談を仲介する支援者間の情報共有が最も重要となる。各支援機関の持つ川上企業のシーズ情報と訪問、聞き取りにより得た川下企業のニーズ情報との擦り合わせにより、個別企業の面談候補先を選定、フォーラムの開催へと繋げる活動を行った。

支援者会議

フォーラム名等	支援機関	参加数	開催日	開催内容
第1回支援者会議	(財)大田区産業振興協会 京都リサーチパーク(株) (株)さがみはら産業創造センター (株)インテリジェント・コスメス研究推進機構 (株)つくば研究支援センター (財)東予産業創造センター (財)ソフトピアジャパン (社)蔵前工業会 東工大横浜ベンチャープラザ 関東経済産業局 (株)インディペンデンツ (株)矢野経済研究所 (独)中小企業基盤整備機構 (株)ケイエスピー	23	H22.7.21	協創マッチングフォーラム 企画の説明 ビジネスアライアンス研究会について
第2回支援者会議	(財)大田区産業振興協会 (株)さがみはら産業創造センター (株)インテリジェント・コスメス研究推進機構 (財)東予産業創造センター (財)川崎市産業振興財団 (社)蔵前工業会 東工大横浜ベンチャープラザ 関東経済産業局 (株)インディペンデンツ (株)矢野経済研究所 (独)中小企業基盤整備機構 (株)ケイエスピー	19	H22.11.22	協創マッチングフォーラム (10月6日)開催結果の報告 参加企業のマッチング進捗状況について 協創マッチングフォーラム 企画内容説明 来期フォーラム事業について
第3回支援者会議	(財)大田区産業振興協会 京都リサーチパーク(株) (株)つくば研究支援センター (株)インテリジェント・コスメス研究推進機構 (財)東予産業創造センター (財)川崎市産業振興財団 (社)蔵前工業会 東工大横浜ベンチャープラザ 関東経済産業局 (独)中小企業基盤整備機構 (株)ケイエスピー	18	H23.2.17	協創マッチングフォーラム (1月19日)開催結果の報告 参加企業のマッチング進捗状況について 来期フォーラム事業について

マッチングフォーラムの開催

各支援機関からの推薦企業の事業内容をもとに、ジョイントコーディネータが面談候補企業の探索、面談のアレンジを行った。また、参加川上企業のプレゼン資料集を作成、全来場者に配布し、社内での回覧によるフォーラム開催後の引合いへ繋げる工夫をした。

フォーラム名等	参加企業		参加数	開催日	開催内容
	川上企業	川下企業			
第1回協創マッチングフォーラム (場所：KSP)	16社	24社	139名	H22.10.6	中小ベンチャープレゼンテーション(1社5分×16社) 個別面談(1面談15分×79面談)

第2回協創マッチング フォーラム (場所：東京ステーション コンファレンス)	26社	39社	395名	H23.1.19	中小ベンチャープレゼンテーション(1社5分×26社) 個別面談(1面談15分×134面談) シンポジウム「EV関連ビジネスを検証する」 ・基調講演 東京大学 総長室アドバイザー 村沢義久氏 ・パネルディスカッション 株式会社ゼロスポーツ 代表取締役社長 中島徳至氏 テラモーターズ株式会社 代表取締役社長 徳重 徹氏 Myway プラス株式会社 代表取締役 楊 仲慶氏
---	-----	-----	------	----------	--

(2) セミナー・勉強会開催実績

セミナー名等	実施日	検討課題(テーマ名)	参加企業	
			川上企業	川下企業
ビジネスアライアンス研究会 キックオフ交流会	H22.8.26	研究会の概要説明 参加企業プレゼン(各社の事業内容紹介)	19社	10社
二次電池PJ第2回研究会	H22.9.29	リチウムイオン電池のマーケット概況	4社	2社
スマートグリッド、セクネットワークPJ第2回研究会	H22.9.30	今後の進め方についてディスカッション 事例研究	15社	10社
二次電池PJ第3回研究会	H22.10.26	事例研究	2社	1社
スマートグリッドPJ第3回研究会	H22.10.27	参加企業の課題発表、ディスカッション 先進企業プレゼン	5社	7社
セクネットワークPJ第3回研究会	H22.10.28	参加企業の課題発表、ディスカッション	6社	4社
セクネットワークPJ第4回研究会	H22.11.24	参加企業の課題発表、ディスカッション	4社	3社
スマートグリッドPJ第4回研究会	H22.11.30	参加企業の課題発表、ディスカッション 先進企業プレゼン	5社	6社
二次電池PJ第4回研究会	H22.12.1	事例研究	2社	2社
合同交流会&第5回研究会	H22.12.14	参加企業プレゼン(感想、アライアンス状況) 参加企業の課題発表、ディスカッション 先進企業プレゼン	8社	8社

(3) 交流会開催実績

セミナー名等	実施日	検討課題(テーマ名)	参加企業	
			川上企業	川下企業
ビジネスアライアンス研究会 キックオフ交流会	H22.8.26	研究会参加企業、支援者間の 情報交換	17社	8社
二次電池PJ第2回交 交流会	H22.9.29	研究会参加企業、支援者間の 情報交換	3社	2社
スマートグリッド、セコネットワークPJ第2回交流会	H22.9.30	研究会参加企業、支援者間の 情報交換	12社	9社
二次電池PJ第3回交 交流会	H22.10.26	研究会参加企業、支援者間の 情報交換	2社	1社
スマートグリッドPJ第3回 交流会	H22.10.27	研究会参加企業、支援者間の 情報交換	4社	6社
セコネットワークPJ第3回交 交流会	H22.10.28	研究会参加企業、支援者間の 情報交換	4社	3社
スマートグリッドPJ第4回 交流会	H22.11.30	研究会参加企業、支援者間の 情報交換	4社	6社
二次電池PJ第4回交 交流会	H22.12.1	研究会参加企業、支援者間の 情報交換	1社	2社
合同交流会	H22.12.14	研究会参加企業、支援者間の 情報交換	6社	5社

(4) シーズ・ニーズ調査実績

KSP、KRP、SICといったインキュベーション機関や、連携支援機関の紹介、民間企業の紹介により、ジョイントコーディネーターがフォーラムに参加予定の川上企業を訪問しシーズの把握を行うとともに、川下大企業を直接訪問し、事業探索内容などをヒアリング、フォーラムへの参加、企業の紹介へと繋げる活動を行った。

<p>< 訪問企業 ></p> <p>川上企業: アルファーデザイン、iSAFE、ピノー、ジェイエヌシー、福島電機、サクラテック、アクアフェアリー、ワイケーシー、アイピースクエア、アイキューブド研究所、MQ、ユビキタス・テクノロジーズ、サイエナジー、Bi2-Vision、昭和精工、ギガヘルツテクノロジー、ファルコンシステムコンサルティング、シノザワ、釜谷サービス、テラモーターズ、東京 R&D、オーエスエスプロードネット</p> <p>川下企業: 日本電熱、信越富士通、日本アレフ、オリンパスビジネスクリエイツ、神栄テクノロジー、谷沢製作所、ワイ・デー・ケー、ハセテック、エプソントヨコム、いすゞ中央研究所、東信電気、日東通信機、湘南技術センター、セントラルエンジニアリング、三菱ふそうトラック・バス、積水化成品工業、日本電産コパル、東洋システム、尾関、東レ、東芝コンシューマエレクトロニクス、日立ハイテクトレーディング、日本アビオニクス、トーハン、コニカミノルタ、東芝テック、日立製作所</p>

(5) 販路開拓実績(展示会や商談会など)

展示会・商談会 名称等	参加企業		開催日	開催場所	開催内容・検討課題等
	川上企業	川下企業			
(商談会はフォーラム内 で実施)					

(6) ジョイント・コーディネーターの配置及び果たした役割について

氏名	所属	専門分野	川上・川下間のシーズとニーズのマッチング及び連携コーディネートの内容等
栗田 秀臣	(株) ケイエスピー	エレクトロニクス、半導体など	委託事業責任者・企業支援者として川下企業へのヒアリングや、連携支援機関の支援先企業とのマッチング候補先の選定、アレンジを行った。

3. 本事業の実施結果（成果）及び評価

成果

協創マッチングフォーラム

2010年10月と2011年1月の2回のビジネスマッチングを開催し、合計42社の中小企業がプレゼンテーションを行い、1社あたり平均5.0社との個別面談の機会を提供した。

	中小企業数 (面談数/社)	面談数	参加者数
第1回 (2010年10月)	16 (4.9)	79 (事前59、当日20)	139
第2回 (2011年1月)	26 (5.1)	134 (事前104、当日30)	395
合計	42 (5.0)	213 (事前163、当日50)	534

ビジネスアライアンス研究会

2010年8月26日の3テーマ合同でのキックオフ交流会を皮切りに、毎月研究会を開催した(合計10回)。研究会での参加企業の課題発表、事例研究を通じた交流だけでなく、参加企業間で活発に企業訪問が行われた。

評価

協創マッチングフォーラム

ビジネスマッチングの本来の趣旨である、提携・取引に繋がる確率を、10月、1月のフォーラムに参加した中小企業にアンケートを行い集計した。

マッチング進捗状況 (平成23年2月8日時点)

	中小企業数	面談数	アンケート 回答社数	継続案件数 率	成約件数
第1回 (2010年10月)	16	79	14	17 21.5%	1
第2回 (2011年1月)	26	134	26	51 38.1%	0
合計	42	213	40	68 31.9%	1

成否確定には6ヶ月ほどが必要であると考えられるが、「中小の具体的な提案」と「大企業の社内検討」が行われたことを初期の成果と想定した。

10月の案件継続率は21%であり、当初目標(2割)を達成した。1月における継続率は38%だが、今後の検討の進行により、継続数は減少すると思われる。

ビジネスマッチングの成果は、商談案件の成立を最終目標としながらも、参加企業アンケートからそのプロセスを分析すると、中小企業の経営にとって重要な「情報収集」「気付き」の機会を提供しており、以下のような効果があったと考えられる。

- ・ 本気の(大企業に売り込めるというモチベーション)かつ、制限の多い(5分間)プレゼン内容の検討において、自社の強みを徹底して考える機会がもてる
- ・ 普段、コンタクトできない大企業との面談により、業界内の課題、予想外の需要、代替技術など、自社だけでは調査不可能な情報を得ることができる
- ・ 他社中小企業のプレゼンを聞くことにより、自社の戦略の妥当性を考える上で「気付き」を得ることができる
- ・ 自社の集中すべき領域(技術・顧客) 選びうる戦略オプション(自社、外部連携)の妥当性を確認できる

また、ビジネスマッチングの参加により、大企業との面談機会は効率的に得られるが、商談案件の創出には、支援者の協力による継続的なフォローが必須であり、支援者が確実にフォローするためには、連携しお互いをチェックするなどの仕組みが有効であると考えられる。

ビジネスアライアンス研究会

研究会における継続的な交流により、参加企業間でのネットワークが形成されており、取引の成立には至っていないものの、研究会終了後も参加企業が活発に企業訪問を行い、具体的な共同開発案件が複数進行しており、平成23年度のサポインへの申請を予定している企業もある。

4. 連携プロジェクトへのアプローチについて

連携プロジェクト名	対象分野	今後のアプローチ	参加企業数	
			川上企業	川下企業
戦略的基盤技術高度化支援事業	電子部品・デバイス	ビジネスアライアンス研究会に参加した中堅企業が平成23年度サポインへ申請予定	検討中	検討中

(その他アプローチについて)

対象分野	今後のアプローチ	参加企業数	
		川上企業	川下企業
件数なし			

5. その他

相談内容	回答実績
件数なし	

6. 今後の取組み方針

- ビジネスアライアンス研究会参加企業では、情報交換の中から、具体的な共同開発、技術提携についての検討が始まっており、サポインへの申請を検討する企業もいる。
- 中堅企業と中小企業とのマッチングは、具体的な案件に発展する確率が高く、テーマを拡充し、研究会活動を強化していく。
- 協創マッチングフォーラムは平成 23 年度も継続し、フォローアップは各機関で続けていく。
- 海外企業(韓国・台湾)とのマッチングについて開催を検討(韓国企業とは今年度自主事業として実施)。
- 特定の大企業とのマッチングについても開催を検討するなど、バリエーションを増やしていく予定。